

戦争を通して平和学習

5月～12月(14時間)

1 はじめに

ノーベル平和賞を受賞した故マザーテレサは来日したとき、日本の繁栄ぶりに驚いた。そして、次のように語った。「日本は物質的に本当に豊かな国です。しかし街を歩いていて気付きました。日本人の多くは弱い人。貧しい人に無関心です。物質的に豊かな人の多くは他人に無関心です。愛の反対は憎しみと思うかもしれませんが、本当は無関心。」

中学生にとって、戦争は遙か昔の出来事である。そして、現在平和を享受しているが、平和について無関心である。平和に無関心な現状を打破し、生徒自らが平和を考え、行動に移していく本校の平和教育の取組について紹介する。

2 実践の概要

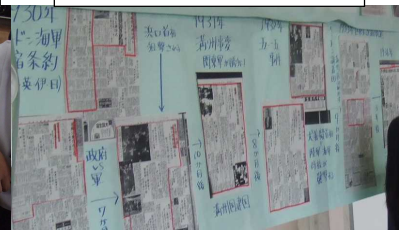
(1) 戦争の悲惨さを知る学級の取組

- ① 当時の新聞や「映像の世紀」の一部を学年で視聴した。「なぜ戦争が起きたのか」その疑問を知るために、教科書には載っていない事実を調べて発表し合った。

当時の新聞を読む姿



当時の新聞による年表



- ② 自分たちにできることは？

戦争の悲惨さを感じたことから自分たちに何ができるか話し合った。多くの生徒が「教科書だけでは学べない戦争の悲惨さを伝えたい。」と考えた。

生徒作文より

ただ起こしてはいけなことは分かっているつもりだったけど、なんだか、見ていて悲しくなる。人を殺して自分が生きる。そのためには戦争の中でどんな犠牲もどんな残酷なこともひどいこともいとわないなんてすごく悲しすぎると思いました。少し前の世界でも化学兵器やなんかすごいのにな、世界中で戦争が起きてしまったらたくさんの方がつらい思いをするだけ。人として仲良くできない理由も反発できないことも、うまくいかずに戦争を起してしまうこともわかるけれどもすごく切ない。どう頑張っても戦争は止めなくてはいけないと思った。戦争が起きてしまって反対した人たちが止めに入りそこでまた戦いが起こる。かかっている理想は同じなのに、なぜ戦いが起きるのだろうか。目先のことしか見ていない。戦争は石臼のようなもので初めに大きな力がある。止めるときまた大きな力がある。だからずっと回り続けている。そしてどんどん酷いことになる。そうなる前に回す前に止める権利があるし、止めなくちゃいけない責任が祖父たちの体験を知っている私たちにはある。いつまで続くか分からないけれども、一人でも多くの未来の私たちの子孫に伝えるべきだと思う。

(2) 岡崎空襲の戦争体験を聞く会—香村克己さんの戦争体験—

10月1日(月)に香村克己さん(84歳)の戦争体験の話聞いた。岡崎空襲の話や戦争中に感じたこと、なかなか聞くことができない話を聞くことができた。香村さんの話を聞き戦争は思っていたよりも、もっと酷く、辛いものだということを知り、感想には「合唱では戦争に対する怒りや悲しみを表現して歌いたい」と書いている生徒も多く見られた。

生徒作文より

戦争の話は、祖父母たちから聞いていくつかは知っていました。しかし私の祖父母は小さかったらしいのでこんな生の声を聴くのは初めてでした。今、私の目の前であの様な風景が広がっていたらと思うと寒気がしてきます。目の前で今まで生きていた人が突然殺されてしまった。それも残虐な形で。もし自分の大切な人がそんな風になってしまったら悲しくて涙も出ないと思います。しかも、日本もこんなことを他国にやっていたんですね。歴史の1ページとして習うのはたやすいけれど本当の心に触れるのは、今ではすごく難しい。うまく言えないけどこの気持ちを歌に込められるように歌ってみたいです。

(3) 平和をテーマにした合唱曲を合唱コンクールの曲に選定

3年生のテーマは「平和」。曲選びの前に戦争についての話を聞き、自分たちで調べたあとに、平和に関する曲を選んだ。「花を探す少女」「In Terra Pax」「ひめゆりの塔」「消えた八月」などを選んだ。平和に対する思いを込めることにした。戦争に対する悲しさ、平和への喜びを歌い上げることができた。

(4) セーブ・アフガニルドレンの会代表サーベファタナさんの講演会

10月2日にアフガン国際理解講演会を行った。アフガニスタンは戦争状態に近いとはいえ、平和、平等、復興への道を歩んでいる様子やタリバン政権下の人権問題、苦しい生活について話を聞いた。平和とは何かを考えることができた。

生徒作文より

サーベさんからアフガンやアフガニスタンの子どもたちについての話を聞いて驚きました。なぜかと言うと女性が教育を受けられない、ムチの体罰、9歳で結婚させるなど日本では考えられないことが同じ地球上で起こっていたことを知ったからです。ごはんを食べられること、勉強ができること、安心して寝られること当たり前なことが実はどれだけ恵まれているかを考えさせられました。サーベさんは「ボランティアは心が豊かになる」と言っていました。私も小さなボランティアから始めていきたいと感じました。

サーベ・ファタナさん



(5) 文化祭テーマ“レッツアクション”ーアクションのモザイクアート掲示物

折り紙に平和に対する思いをメッセージに書いた。その書いたメッセージをモザイクアートとして展示した。



(6) 学級会クラスで自分たちにできることを考える

班別に自分たちがアフガニスタンにやれることを話し合った。その中で出たことは、募金、アルミ缶回収、ベルマーク回収、寄付であった。

(7) ー「ブックキフ」ー自分たちにできることを実行しよう！

全校での意見をまとめ、募金が多いことから募金をすることにした。しかし、募金の方法を考えた。単に募金に頼るのではなく、朝の読書用の図書を交換し合って、募金を作ろうというブックキフ(寄付)を考えた。



各学級では100冊近くの本が持ち寄られた。12月21日に生徒間で換金募金がされた。また、本だけではなく、文房具も集めた。これはNGOを通して、そのままアフガニスタンに寄付をすることにした。自分たちだけが幸せになるのではなく、多くの人たちも幸せであって欲しい。そう考える人が学校全体で増えていった。



3 終わりに

戦争について考えることにより、平和に対する思いが深まった。日本だけではなく、世界も平和になって欲しい。そういう気持ちが高まった。3年生だけではなく、全校生徒で動きたい。アフガニスタンへの平和学習に取り組んだ。3年生の平和への思いはつきない。2月23日に平和シンポジウムで代表30名が平和への思いを発表する。

総合的な学習「美中タイム」の時間の指導計画

本校の教育目標 美川の風土と文化に培われた美川教育の伝統と校風を受け継ぎ、「知・徳・体の調和のとれた人間形成」をめざす。〔栄ある美川！～やる気・がんばり・思いやり～〕

《教科、特活、道徳等との関連》

「美中タイム」でめざす生徒像

- ・ 自尊感情を高め、自他共に大切にしようとする生徒
- ・ 体や心の発達を知り、自らの健康管理ができる生徒
- ・ ライフスキル（意思決定・目標設定・自己表現）を身につけ、よりよく生きようとする生徒

- ・ 保健の授業、道徳、特活などで健康や命の学習を計画的かつ継続的に行う。
- ・ 岡崎の心を醸成する学習や環境問題についての認識を深める学習を取り入れる
- ・ 書く力の伸長を主眼において、各教科の授業の改善を図り、自分の考えを表現する場面を設定する。

研究テーマ

- ・ 健康的なところ、からだ、考え方をもちた生徒の育成
- ・ 人間と環境のかかわりについての正しい認識に立ち、持続可能な社会づくりに主体的に参画できる生徒の育成

「美中タイム」の3つの柱

ア 環境・命の学習

- 1年 大切な自分と仲間（喫煙・飲酒・薬物乱用防止、環境学習）
- 2年 支え合って生きる（異年齢交流、職場体験学習、環境学習）
- 3年 明日をよりよく生きる（平和学習、環境学習）

イ 発達に応じて生き方・進路指導

- 1年 大切な自分と仲間
- 2年 職場体験学習
- 3年 自分の進路について考えよう

ウ 自分たちの文化を広げる

- 1年 山の学習
- 2年 スキー学習
- 3年 修学旅行

年間学習計画・学習内容

	1年		2年		3年	
	テーマ	イベント	テーマ	イベント	テーマ	イベント
4月		オリ学習に向けて				修学旅行に向けて
5月	喫煙等の防止の学習	総体に向けて	職業と生き方の課題			修学旅行に向けて
6月		クリーンプロジェクト	高齢者疑似体験	クリーンプロジェクト	戦争について知る	クリーンプロジェクト
7月			東病院訪問			
9月		体育大会に向けて		体育大会に向けて		体育大会に向けて
10月	エイズについて知ろう	文化祭に向けて	職業と生き方計画準備	文化祭に向けて	戦争体験の話聞く	文化祭に向けて
11月		文化祭に向けて	職場体験	文化祭に向けて	戦争曲合唱	文化祭に向けて
12月	薬物乱用禁止の学習			スキー実習に向けて	アフガニスタンの話を聞く	
1月	発表会の準備		発表会の準備	スキー実習に向けて	フックアップ	
2月	発表会		発表会	祝う会に向けて	発表会	
3月						卒業式に向けて

実施時間

	1年	2年	3年
環境・命	20	20	20
生き方・進路	15	35	35
文化を広げる	15	15	15
合計	50	70	70

家庭・地域との連携

- 家庭地域への発信
 - 学校新聞 学年便り 職員室たより
 - ホームページ リーフレット「美川の教育」
 - 学校文集
- 地域での校外活動
 - 東病院
 - 各事業所での職場体験
- ゲストティチャー（GT）の活用
- 講師を招いての講演会
- 外部学校評価の活用

評価

- ・ 具体的に育てたい力の検討と評価規準表作り
- ・ 評価方法の検討（研究部会 学年部会）

美中ファイルによる記録の集積…意識の変容をつかむ
ワークシートの利用…個々の振り返り
アンケートや報告会の実施…相互評価